

第3回竜王町総合計画審議会 会議録

日時：令和2年11月16日（月）19：00～

場所：竜王町防災センター 2階大会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議事

第六次竜王町総合計画（案）の全体像について

4 グループワーク

将来人口について

5 その他

6 閉 会

【出席委員】

市岡、井手、勝見、北村、瀧川、谷口、谷村、西村悠哉、西村三代司、松瀬、竹井、吉田

【欠席委員】

谷、森島、石橋

※敬称略、順不同

1 開会

事務局：今回は3回目ということで、よろしくお願いいたします。夜にもかかわらずご出席いただきありがとうございます。第2回では将来のまちの在り方をどう考えていくのかということをお話していただきました。今回、次の案件ということで、将来人口についてお話しいただける機会となります。忌憚のないご意見をいただきたいと思います。あわせて、写真と音声を記録としてとらせていただきます。何とぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

2 挨拶

事務局：開会にあたりまして、本日、副町長が出席させていただいておりますので、榎木副町長よりご挨拶いたします。

副 町 長：皆さん、こんばんは。副町長の杼木です。審議会の委員におかれましては、昨年、第1回目を開き、そのあと内部的なことやアンケートを実施しておりましたが、前回から改めて年度末にかけてお世話になるということで、よろしくお願い申し上げます。2点ほどお話しさせていただきたいと思います。1点目は、今日、竜王町で工場火災がありました。鏡工業団地のエイエフティーさんというプラスチックでボディーをつくる会社です。けが人はなく、昼過ぎには鎮火して、あとは現場検証ということです。今、ダイハツがロッキーという車をトヨタさんと連携して製造しています。その軽量化を図るためにプラスチックでボディーを一部供給しており、今回火事のあった会社はそれを製造する会社です。今日の審議会では人口に焦点を当て、ご議論いただきます。10年前の第5次では14,000人を目指そうということで、計画を策定しました。学校の問題や下水の問題、いろいろなものが人口に関わってきます。人口減少の中で、どういう形で人口を捉えて整備をしていくか、またシステムを組み立てるかということになりますので、それぞれの立場で思いをお話しただければありがたいと思います。竜王町にはアウトレットや希望ヶ丘文化公園もごございますので、観光人口は約80万人から100万人という数値が上がっています。アウトレットには600～700万人訪れます。町としても、それを生かすことが大切だと考えています。皆さん、活発なご助言等いただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

事 務 局：続きまして、西村会長からのご挨拶いただきます。

会 長：皆さん、こんばんは。今回は第3回目の総合計画審議会ということで、お集まりいただきありがとうございます。前回、第2回が10月28日ということで、短いスパンで集まっていただきました。前回も活発なご意見をいただきましたので、今回もできるかぎりグループワークを重点的に皆さんにご議論してもらいたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

事 務 局：ありがとうございました。1名、自治会連絡協議会の会長が変わられたため、委員が交代というご紹介はさせてもらったのですが、前回欠席ということで、本日新しく入っていただきました。竹井委員さんにご挨拶いただきます。

竹井委員：こんばんは。このあとも何回かありますので、よろしくお願いいたします。

事 務 局：ありがとうございます。それでは以降につきましては議事ということで、進行を会長にお願いします。

3 議事

第六次竜王町総合計画（案）の全体像について

【事務局が資料に基づき説明した】

会 長：今の説明について、ご意見、ご質問等ありましたら、どなたでも結構ですので、ご遠慮なく出していただきたいと思います。人口としては徐々に減っていることは確かですが、住んでいないけれども、逆に会社も増えていますし、アウトレットも増えて、竜王に来る人は逆に多くなっているのでしょうか。

事 務 局：企業にお勤めなどで竜王に来られている方、逆に竜王在住で勤め先が近江八幡だったりという方もいます。昼間、竜王にいる方は国勢調査のデータで 17,264 人です。一般的に生活している竜王町の人口が 12,434 人いて、お勤めなどに出て行かれる方が大体 4,000 人くらいです。9,000 人ほど竜王町にお勤めなどで入ってくるということで、昼間に仕事などで来ている人は実際の住民の人口より 5,000 人ほど多い形になっています。

会 長：これをいかに留めておくかです。

北村委員：おとし、古い家を改修して補助金の申請に行きましたが、その家に住民票を5年間置かないといけないと言われ、改修する補助金をもらえませんでした。今回、自分の今住んでいる住宅ではない別の持ち家を、空き家なので改修して若い世代に貸し出そうと思ったのですが住民票を置かないと補助金がもらえません。ほかにも補助金がないかと探して、若い世代が入ることになったので、家賃補助の話があるとお聞きして行ったのですが、持ち家の一軒家には出ないらしいのです。松が丘周辺にあった賃貸物件のみしか駄目という話をお聞きして、なぜだろうという疑問があったのが先々週の話です。空き家対策にもなるし、若い世代がとりあえず住んでくれて、竜王町は子育てにもいいし住んでいけるねとなったときに家を購入して住んでもらえたらベストと思うのですが、今すぐには家を買えないけれども、とりあえず貸してもらえる所に住んでみようという若い世代に対して、家賃補助などがあればいいのにと考えたところです。人口増にどうつながるかですが、入り口でそういう状態だったので、疑問に思いました。

副 町 長：制度設計の時に空き家という視点が足りなかった気がします。おっしゃるように、若い夫婦が住んでくれて、新しい家を建ててくれるきっかけづくりですが、松が丘周辺の集合住宅を中心にものを考えていたので、参考にさせていただきます。

北村委員：ぜひお願いします。私のいる美松台にも空き家が出てきています。そういう所に住みたい方もいるので、改修費用を住む人だけでなく、貸し出すために改修する費用などを補助して、若い人を受け入れられるように広がればいいなと思います。

谷口委員：資料４の右側のグラフで、社会動態のところで 2018 年が転入と転出が逆転しています。2017 年に転出が多かった反動があるのかもしれないし、世代的な問題があるのかもしれないですが、転入がこの年は前年よりも増えて、転出が大幅に下がっています。原因が分かっていたら教えてください。

事務局：おおよその原因は、企業寮への外国人の転入転出の関係です。技能実習生が来られて翌年に出て行かれるということになっているので、2016 年も近づいているような形になっています。もう少し詳細に見ていかないといけない部分がありますが、影響としてはそういった部分が大きいかと思います。

会長：詳しく調べてみてください。

谷村委員：先ほど言われた昼間人口との差で、職場が違う方で、入りたいと思っている方が非常に多いと思います。私は西出という集落にいますが、一人暮らしがたくさんいますので、これから 10 年くらいで空き家がたくさん出てくると思います。そこに例えばダイハツの方が、賃貸ではなくて、使ってくださいといわれても、家を今建てられないのでしょうか。空き家対策といっても、そこを解決しなければいけません。制度は今どうなっているのですか。

事務局：おっしゃるように、竜王町はほとんど市街化調整区域です。市街化調整区域内で家を建てようと思うと、その地に 10 年以上住み続けている方か、例えば農家の方が農家住宅で建てるなどという縛りがあることが、どうしても竜王町の課題であり、なかなか法律上変えられない難しいところがあります。

谷村委員：それは美松台や松が丘など団地では可能なのですか。

事務局：美松台、松が丘は可能です。

谷村委員：既存の集落ではそれができないということですね。

事務局：難しいです。

谷村委員：竜王町は土地改良をやっているから外せないと言いますが、その問題を解決しないといけません。副町長が言われたように、昼間の就労人口が多いのですから。

谷口委員：10 年前の策定の時にも、人口 14,000 人が無謀とも思える数字だというのは重々分かっていましたが、なんとかそこを目指していかないことには竜王町の将来が見えてこないというのがありました。それを実現するためには、家を建てて住める場所をつくらないといけないという話は、その当時出ていました。それに合わせて、人口

を増やすための施策の1つとして、家を建てられる土地を増やそうということで、ここ10年間努力もしていただいていると思います。ただ、それが思うように進んでいないというのは確かにあります。人口をこれ以上減らすわけにはいかないという強い思いを持って、町として例えば一番ネックになっている都市計画法による市街化調整区域の指定を外すなり、市街化区域に切り替えていくのが正攻法ではありません。県の都市計画とも関わってくるものなので一朝一夕にはいかないのが現状です。ほかにも、先ほどおっしゃったように農業関係に絡めた開発の仕方が緩和措置としてあるわけですが、そういったものを活用するとか、あるいは地区協定という形で、集落全体の賛同が得られれば、市街化区域並の扱いをすることも可能です。そういったことをできるだけ地域の皆さんが一生懸命考えていただける雰囲気づくりをしていかないと実現しないことだと思います。そこまで踏み込んでもらえるかどうか、今回の総合計画の1つのポイントになってくる気がしています。

谷村委員：51ページの地図に新規住宅地ということで、山之上などの話は何度か聞かせていただいたのですが、全部夢物語で全然進んでいません。

事務局：10年前、市街化調整区域の北部地域のグラウンド跡地を活用しようと、地区計画の制度を使って住宅が建つよう計画しましたが、開発業者が途中で頓挫するなどしてなかなか進まなかったのが現状かと思います。そういう中で、入り口のもともと工場を建てるために市街化区域になった所を、工場よりもまずは家を建てようということで、工場から住宅に用途替えして、今10棟くらい集合住宅ができています。どちらかというと方向転換をしたのがこの時期かと思います。今までアパートが町内にあまりなかったので、やり方についてはいい方向に進んだと思っています。今考えているのは、コンパクトシティということで竜王小学校を町の中心へ移す話をしていますが、その跡地は家が建つ区域ですので、まずはそういう所を活用して、今までの課題を克服する1つの手段として変わっていこうと考えています。

会長：小学校ができるのは5年後ですか。

事務局：5年後には新しい小学校が建つ計画です。

会長：それまではないということですね。他にはどうですか。

事務局：須恵の町有地ですが、もともと2つあって、半分はコマツキャブテックさんの専用寮で、あれも1つの方向転換です。企業の寮として実際に住んでもらい、近くに勤務してもらっています。昔の考え方だと、町の財産を民間に売ということはなかったのですが、町の財産を使って住んでもらう場所をつくらうということでやっています。あとの残りも、次の部分として考えています。

副 町 長：この 10 年間でいろいろなチャレンジをしています。土地利用的には住宅になるというところを含めいろいろ折衝している中では、学校が近いという要素も重要です。山之上では広報し、地権者やハウスメーカーにも話をしていたのですが、職場には近いが学校からは 3km くらいあるので、お客さんがつかないという話です。そこが大きな課題なので、竜王小学校を一番近い所に移動すれば、開発も進むということで、そこら辺の軌道修正をしないと難しいと思います。

瀧川委員：人口の問題で、一世帯あたり 3～4 人くらいと思いますが、1,400 人足りないとなると大体 500 世帯となり、その割り振りをしっかりしていく必要があります。例えば山之上地区に 50 軒、学校の跡に何世帯と具体的にやっていかないと絵に描いた餅になります。例えば 10 世帯でも 5 世帯でも、今ある所を借り上げて貸しやすくする再利用や今残っている家が何軒あるのかも把握しないとイケません。

会 長：貴重なご意見をありがとうございます。以上で、議事事項は終了させていただきたいと思います。進行を事務局にお返しさせていただきます。

4 グループワーク

事 務 局：ありがとうございます。このあと前回と同じように場所を用意しています。今日は「人口について」ということでワークシートを別に作っています。頂いたご意見は、前回と同様、各グループから出た意見を皆さんに共有する時間を持ちたいと思います。コロナ禍ですので、できるだけ会議を短時間で、8時半くらいには終わりたいと思います。

《人口フレームの検討に関するグループワークの実施》

事 務 局：活発なご議論をいただきありがとうございます。各グループでお話しいただいた内容を、両先生に紹介いただければと思います。まずは、谷口先生お願いします。

谷口委員：こちらのグループでは、特に既存集落での高齢化が進んでいるというのが人口減少等への大きな影響になろうということを話しました。今後、空き家が増えていくことへの不安や、安心して引き続き暮らしていけるのかも大きな課題となっていました。また、後継者が育たず、みんな出ていってしまうということもありますが、中には一度外へ出て、結婚して帰ってくる方も見受けられるということです。そういった要因ももう少し精査して、町としてもできるだけ条件を整えられる部分については対応していく必要があるのではないかと思います。地域や町全体への影響については全ての税収が減少することが大きな要因になろうかと思いますが、商業や地場の、特に産業の衰退が懸念されることや、インフラ関係の維持が難しくなっていくということです。また、自治会に入らない若い世代が多く、自治会をはじめとするコミュニティの維持が難しくなってくるというのが一番大きな声だったと思います。帰ってきても仕事がないということではなく、農業が魅力的な竜王町なので、

そこに特化した若手後継者の育成、あるいは誘致も効果的ではないかというお話もいただきました。そのためには、居住できる環境づくりが必要で、農業政策に絡めて、アパートなどの建設がある程度可能な状況を探っていくことが必要ではないかということです。私が全体的に印象的だったのは自治会の今後の活動の仕方をどう考えていくかが大きな問題になると思います。もっと若手が活躍できるような自治会にならないかというのが、最後のまとめとして皆さんの口から出てきたのですが、実は私が住んでいる集落の自治会でも、もっと女性に参加していただこうと一生懸命取り組んでいます。高齢の女性は慣れていないというだけでなく、出て行きたくないという気持ちが非常に強いです。自治会を運営していく若い人材を見つけ、育てていくということであれば、若い女性の参画も十分考えられるかなと、話を聞きながら思っていました。

事務局：ありがとうございます。井手先生、お願いします。

井手委員：こちらのグループも、後半は地域としての活性化をどうするかという話が出ました。具体的には外から入ってくる方々に昔ながらの集落の伝統を押し付けるわけにもいきません。かたや集落としての活性化、人のつながりは必要なので、今の時代に合わせた形のつながり方にしなければいけないということでした。お祭りなども最近どんどん変わってきています。今年は特にコロナ禍で中止も多く、そういった中で、本当に必要なものだけが残っていくと思います。もしかすると、今がその辺りを変えていくチャンスではないかという話もありました。それ以外には、一度出られた方に帰ってきてもらう。特に、第2の人生を過ごすために帰ってきてもらうための魅力や、外の人に竜王町の良さを知ってもらうきっかけづくりのために、空き家の貸出、それに対するいろいろな補助金制度もつくっていく。あるいは、そもそも出会いの場づくりというのも必要ではないかという話が出ました。また、土地利用、特に転用についてはかなりテクニカルな問題があり複雑なので、メリットとデメリットをはっきりと出した上で、今後の方向性を話し合わないといけないのではないのでしょうか。最後に、我々としては一生懸命、最善策を考えてやっていき、それを次の世代が見て、また引き継いでいってもらえるということを、信じてやっていくしかないのではないかという話もありました。

ジャパン総研：本日は「人口の見通し」ということで、人口減少を抑え、人口構成が変わっていく中での取組についてアイデアをいただきました。計画の中では「人口フレーム」という形で、一定の目安も設定していくことになると思います。人口が減少し始めた10年前の第五次計画では14,000人と設定し、そこから頑張っていけば増やせるのではないかというところがありました。そこから10年たって、いよいよ人口減少も加速していく中で、どうしていくのかというところが変わってきたと思っています。ご意見をしっかり踏まえながら、人口が減ったとしても、こういう町にしていこうということがしっかり示せる計画にしていきたいと思っています。それでは、事務局に進行をお返しします。

5 その他

事務局：皆さんからいただいたご意見は、次回までにまとめたものを練り上げたいと思います。また、書いていただいたキーワードもこちらで拾って整理します。それでは、次回の予定について説明します。

事務局：12月2日に第4回審議会を予定しています。後半、今日と同じ形でグループワークを予定しています。次回は、土地利用について、町の拠点や軸、道路がこうあったらいいという部分の話ができたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

6 閉会

副会長：今日のグループワークでは「人口」について話し合っていて、「自治会」「コミュニティ」というキーワードが出てきました。なかなか面白い結果になったと個人的には感じています。引き続き、積極的な意見を出していただいて、六次総合計画も、時代に合った計画にしていただけたらと思っています。個人的な意見ではありますが、人口を増やすとか人口減少を食い止めるというのは、あくまでも手段であって目的ではないと思います。実際、ワークシートにも書かれているように、自分自身の影響や地域や町全体への影響がもし全て解消されれば、極論、人口が1万人だろうが5,000人だろうが2万人だろうが構いません。それであっても可能という捉え方もできます。コロナもあって、今までの常識が覆されてきました。そこを踏まえ、作成に当たって、そういったことも考慮していただければありがたいと思います。皆さん、お疲れ様でした。

事務局：ありがとうございました。最後に、総務主幹からお願いします。

総務主幹：長時間、本日もいろいろと話し合いをしていただき、ありがとうございました。お話の中で、人のつながりですとかコミュニティということをお聞かせいただきました。国のほうで話題になっている、高齢者が避難するときにどのように支援するかという、避難行動要支援者のための個別計画があります。Aさんを誰がどのように支えて避難させ支援するかという計画ですが、全国的にまだ2割程度しかできていません。これは、努力義務ではありますが、災害対策基本法にはっきりと「作るように」と書かれるという状況です。進まない理由としては高齢者、あるいは対象になる方が多過ぎるということが一番の問題です。人のつながりやコミュニティを大事にしていけないといけませんし、消防団員の確保もしていけないといけません。そのためにも問題意識をもって、やるべきことをやっていく必要があるのではないかと、改めて意識しました。そういったことも含め、総合計画にも入れていければと思っています。12月4日と、年内に全部で2回予定しています。だいぶ寒くなってきましたし、コロナも発生していますが、ご自愛いただき、計画づくりにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。